

6日

前厚真消防団長の木村幸一さんが 瑞宝単光章を受章

前厚真消防団長の木村幸一さん（朝日・76歳）が瑞宝単光章を受章され、胆振総合振興局の早苗保穂副局長から勲記と勲章が伝達されました。

木村さんは昭和37年4月に厚真消防団に入団し、54年の永きにわたり活動。また、平成24年4月からは団長に就任し、消防団員の育成指導と融和団結を図り、厚真消防団の発展・充実と消防体制の確立に尽力されました。

木村さんは「消防団は社会勉強になりました。大切な団体だと思うので昔ながらの伝統を守りながら残して行ってほしい」と話していました。



8日

町コミュニティ運動推進協議会が チャリティ即売会の売り上げを共同募金会に寄付

町コミュニティ運動推進協議会（山下昌秀会長）の歳末チャリティ即売会の売り上げ44,501円を北海道共同募金会（厚真町共同募金委員会・種部健一会長）に寄付しました。即売会は毎年12月1日に総合福祉センターで開催され、今年は町民から寄付された衣類や小物など約1,000点が並べられました。

山下会長は「即売会にはたくさんの方に足を運んでいただきありがとうございます。売り上げは、地域のために少しでも役立ててほしいです」と話していました。



目録を手にする山下会長(左)と種部会長(右)

8日

犯罪や交通事故に気をつけて！ 交通安全・防犯町民集会

町と町交通安全推進委員会、町交通安全協会、町防犯協会による「平成29年度交通安全・防犯町民集会」が、総合福祉センターで行われ、自治会や事業所、関係団体などから約70人が参加しました。

集会では、苫小牧警察署交通第一課の村田典繁企画課長が死亡事故発生状況と事故防止について、同署生活安全課の武田朋広生活安全係警部補が特殊詐欺について講話。村田企画課長は「飲酒運転を見つけたら情報を教えてほしい。地域の皆さんと協力しながら、飲酒運転を無くしたい」と述べていました。



18日

未来を担う若者たち 厚高2年生が職場体験学習発表会

厚真高等学校（加澤雅裕校長）2年生の職場体験学習発表会が同校で行われました。2年生20人は、11月7日から3日間、町内の事業所等14カ所で職場体験を実施。全校生徒や受け入れた事業所の関係者の前で、スライドを使いながら体験で学んだことを発表しました。

写真館のGスタジオ大岡で職場体験を行った亀尾優希さんは「お客さまから信頼を得ること、仕事を好きになること、目標を立てて研究したり努力することが、仕事をする上で大切と学びました」と話していました。



1日

バラエティに富んだステージ 歳末チャリティ演芸大会

歳末恒例の町婦人団体協議会（藤本昭子会長）による「第41回歳末助け合いチャリティ演芸大会」が総合福祉センターで行われました。

今年は大正琴愛好会や厚真郷芸保存会など、個人や団体約20組がステージに出演。町職員2人はけん玉パフォーマンス、今年新規採用となった役場新人職員6人はアカペラを披露し、会場から大きな声援と拍手を受けていました。

このイベントの益金は、厚真町社会福祉協議会へ寄付されました。



2日

最強塾所属の小納谷典慈くんが 全道大会で準優勝

空手道最強塾（幅田洋司代表）所属の小納谷典慈くん（厚真中1年）が、札幌市で開催された「第44回オープントーナメント北海道空手道選手権大会」に出場し、中学1年生軽量の部で準優勝を果たしました。

小納谷くんは同大会に初出場。「最近1回戦敗退が多く悔しかったので、準優勝できて嬉しかったです。大会では中段回し蹴りが何回も決まりました。他の大会では上級生と戦うこともあるので、そこでも勝てるように頑張りたいです」と話していました。



4日

新たな手法でまちをPR！ まちのPRグッズワークショップ

10月11日から約2カ月間5回、「まちのPRグッズ企画制作ワークショップ」が行われ、町内の女性8人が町のPRグッズを企画しました。

このワークショップは、今年が初開催。町と包括連携協定を締結している札幌市立大学の教授が講師となり、デザインの考え方や発想の方法などを参加者に教えました。

参加者からは、町のオリジナルテープを作成し、ふるさと納税の返礼品や町外に発送する荷物を梱包する際に使用して、興味を少しでも持ってもらうという企画が提案されました。今後は、試作を重ねオリジナルテープを制作する予定です。

